

脈々 高蔵^{スピリッツ} 魂

(創立者 市邨芳樹のことば)

「活火を点ぜん」

家族のことを人に自慢することはないが、蔑む必要はない。蔑称によってへりくだるのは、我が国の悪慣習と言える。

生徒は可能性に充ち満ち、その前途は洋々である。次代の宝であり、かりそめにもおろそかに扱ってはならない。

在学中に、二つのことを授け置かねばならない。一つは心を以て心に伝える「教え」、一つは未来への扉を開く「鍵」。

自ら^{あなど}侮るものは、人の侮りを招く。自らの信ぜざる商品を取扱ふもの、如何^{いかん}ぞ他人の信用を博するを得んや。 (「藪椿」5-9)